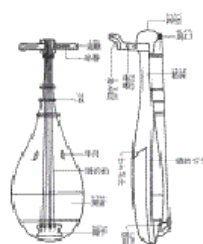


薩摩琵琶

【所在地】鹿児島市紫原 6 - 44 - 12 （薩摩琵琶同好会）

【種別】県指定無形文化財（芸能）

【指定年月日】昭和 37 年 10 月 24 日



薩摩琵琶は、伊作（現在の吹上町南部）常楽院の開山（創立者）宝山検校が庶民に仏教の教えを広めるために始めた、いわゆる盲僧琵琶が源流になっていると伝えられている。元来、宗教音楽であった盲僧琵琶を芸術的な琵琶音楽にしたのは、戦国時代の武将島津忠良と、当時の常楽院住職淵脇寿長院である。この頃、琵琶が大形化し、演奏法も武士の好みに合わせて勇壮なものとなった。また、「崩れ」などの独特の演奏法も始められ、戦記物を語る時の伴奏音楽としてもはやされた。

江戸時代になって、座頭風、土風、町風の3派に分れ、人びとに愛好された。

近代になってからは、土風琵琶を継承して明治から大正にかけて薩摩琵琶の全盛期を迎えた。

現在伝承されている曲は「蓬萊山」のような祝賀歌、「城山」のような戦記物などがある。